

※※2014年10月改訂(第6版)

※2014年2月改訂(第5版)

| | |
|------------|------------|
| 日本標準商品分類番号 | |
| 875200 | |
| 承認番号 | (61AM)3287 |
| 薬価収載 | 1986年10月 |
| 販売開始 | 1986年10月 |

貯法：しゃ光・気密容器
使用期限：容器、外箱に表示

■ 17 ■

漢方製剤

ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用)

【組成・性状】

| | | |
|-------|--|------------------------|
| 組成 | 本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス2.0gを含有する。 日局タクシャ……………4.0g 日局ブクリヨウ……………3.0g 日局ソウジュツ……………3.0g 日局ケイヒ……………1.5g 日局チョレイ……………3.0g | |
| | 添加物 | 日局ステアリン酸マグネシウム、日局乳糖水和物 |
| 性状 | 剤形 | 顆粒剤 |
| | 色 | 淡灰褐色 |
| | におい | 特異なにおい |
| | 味 | わずかに辛い |
| 識別コード | ツムラ/17 | |

【効能又は効果】

口渴、尿量減少するものの次の諸症：

浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

【用法及び用量】

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- (2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

| 頻度不明 | |
|--------------------|---|
| 過敏症 ^{※1)} | 発疹、発赤、痒痒等 |
| ※ 肝臓 | 肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP等の上昇) |

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

5. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

【薬効薬理】

※※1. 止瀉作用

マウスに経口投与したところ、硫酸マグネシウムによる下痢を抑制した¹⁾。

※※2. 利尿作用

マウスに経口投与したところ、絶水マウスでは尿量に変化がなかったが、水中毒マウスでは尿量が増加した²⁾。

※※3. 口渴に対する作用

糖尿病性口腔乾燥症モデルマウスに経口投与したところ、唾液分泌速度の低下が抑制された³⁾。

4. 作用機序

本剤は、以下の作用により薬理効果を示すことが示唆されている。

(1)利尿作用

イヌ腎臓由来の遠位尿細管の皮質部集合管由来細胞(MDCK細胞)において、ナトリウムチャネルを阻害した(*in vitro*)⁴⁾。

※※(2)尿量増加作用

ラットに経口投与したところ、腎皮質のアクアポリン(AQP)3 mRNA及び腎髄質のAQP2 mRNA、AQP3 mRNAのダウンレギュレーションにより尿量が増加した⁵⁾。

【包装】

500g、5kg(500g×10)、2.5g×42包、2.5g×189包

【主要文献】

- ※※1)岡村 信幸・他. 日本東洋医学雑誌. 2009, 60(5), p.493.
- ※※2)大西 憲明・他. 和漢医薬学雑誌. 2000, 17(3), p.131.
- ※※3)板井 丈治・他. 日本歯科東洋医学会誌. 2008, 27(1-2), p.9.
- 4)桑原 道雄・他. 腎と透析. 1996, 41(2), p.251.
- ※※5)Kurita, T. et al. J. Med. Sci. 2011, 11(1), p.30.

【文献請求先】

株式会社ツムラ お客様相談窓口
東京都港区赤坂2-17-11 〒107-8521
TEL: 0120-329970 FAX: 03-5574-6610